

研修に参加した本学国際交流ボランティア学生(FITメンバー)の感想

蒲原 亜矢 (人文学部英語学科)

セミナーを振り返って

私は研修生達に会う前、彼らとちゃんと意志疎通が出来るの
だろうかと心配していましたが歓迎会の時にその不安は全くな
くなりました。ほとんどの学生が日本語を流暢に話してしま
したし、まだ日本語を学んで間もない研修生たちとも英語で会
話することが出来ました。

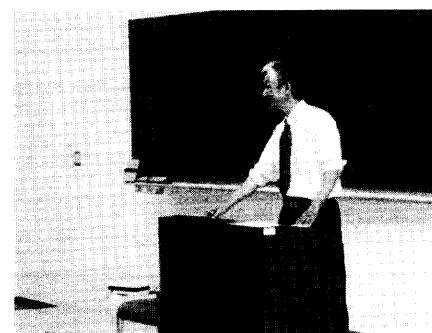
私はこの学生交流セミナーを通して日本を別の角度から見る
ことが出来ました。研修生達から日本のこんな所が良いとか、
こんな所が不思議だという事を聞いて自分もそんな見方があつたの
かと感心しました。研修生の何人かは日本のバスの運転手さん
は本当に親切だといっていました。福岡の運転手さんたちは停留
所が近くなると「バスが止まってから席をお立ちください」と言
い、停留所につくと乗客が降りるまで待ってくれますが、彼らの
国では降りる前に席を立ち、前のほうに進んで待っていないとバ
スの運転手さんはもう全員降りたと思ひ、次の停留所へと発進
してしまうと言っていました。普段、私達が当たり前だと思っ
ていることも他国の人たちからの意見を聞くと別の見方が出来
ます。

研修生達との交流を通して私にとって中国、韓国、インドネ
シア、ネパールの国々がぐんと近くなりました。玄海人クラブ
の代表の方が言われたように私達はそれぞれの国の政策や政治
よりもその国の人の事を知らなければいけないと思ひました。
私自身、福大の交換留学生としてカンザス大学で1年間学びま
したが私達が持つアメリカのイメージと実際のアメリカは違
うことを学びました。今、日本ではブッシュ大統領の政策に対
する批判が多くあり日本人の中でもアメリカの政策とアメリカ人
を一緒にして考えている人がいると思ひます。実際、私が留学
する前にも「どうしてあんなに自分勝手な国、アメリカへ行く
の?」と言った人たちが何人かいました。私も少なからずとも
アメリカに対して偏見を持った部分があつたと思ひますが実際
に行ってみると多くの素晴らしい人たちに出会うことができ、
メディアが報道するアメリカとは全然違つた一面を見ることが
出来ました。私達は周りの判断に流されず自分の目で見て経験
して学ばなければいけないと感じました。

研修生達のお陰で私達福大生もたくさんの事を学びました。
日本に来てくれてありがとう。私達もいつかあなた達の国へ行
てみたいです。国際センターの方、お疲れ様でした。ボラン
ティアの機会を与えてくださつて本当にありがとうございました。



みなさんよろしく！（相互交流にて）



日本の文学と思想について（大嶋仁教授）



海の向こうは母国（マリゾンで）



ディスカッション

中 島 葉 子 (人文学部英語学科)

研修生との思い出

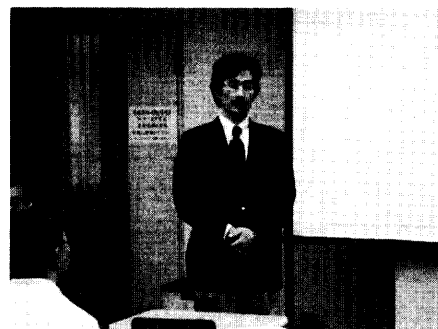


私はこの2週間の研修期間の中で、中九州研修旅行、研修発表会にFITとして参加しました。

研修生は今回日本語を学びに来ていましたが、その研修生の多くが英語を話せました。母語+英語+日本語を話そうとしている人がたくさんいたのです。私も英語を勉強していますが、話せるというには程遠く3ヶ国語もマスターしようとしている人達はどうか学んでいるのだろう、私とどこが違うのだろうとみていました。そこで一番感じたことは日本に対する興味と学習意欲でした。どんな些細なことも疑問に思った事はすぐに質問し、納得いくまで聞いてきました。常にノートとペンを持っていて、新しい発見をする度にメモをして、またそれを研修生同士で教えあっている人もいました。私たちが勉強というと“しなければならない”と考えてしまうけれど彼らは自発的に学び、それを楽しんでいるようでした。日本語を学ぶきっかけを聞くとアジアの中で日本は中心国であるからと答えた人もいたけれど、日本のアイドル(ジャニーズ Jr.)が好きで、その人が話している言葉が分かるようになりたかったからと答える女の子が多くいました。日本の様々な所に興味を持ってくれたことに喜びを感じ、そして言語を学ぶことはその国を学ぶことに直接つながるのだと思いました。

私は旅行が研修生との初対面だったけれど、私の心配をよそにみんなとすぐに仲良くなれました。すぐに私の名前を覚えて呼んでくれて、韓国の女の子は女の子同士で普通に腕を組んで歩くそうで、両腕を組まれて3人で歩いた時はちょっとびっくりしたけれど、そうやってすぐに友達として付き合っていけることがすごくうれしかったです。この研修旅行では一緒になったFITのメンバーにも感謝します。旅行前からどうしたら旅行を楽しんでもらえるか考えたり、出し物についても意見を出し合いました。旅行中、バスの中では研修生が寝ていることが多かったけれど、その間に名簿を片手に必死に名前を覚えたりしました。この3日間、このメンバーでしか作れない沢山の思い出ができました。

研修生の発表会ではそれぞれの文化についていろいろ教えてもらいました。そこでは韓国と日本の歴史や戦争についての話題でもでした。その時に私は日本人の意見として何も答えることができませんでした。その時に初めて知った事実さえありました。それまでみんなと旅行に行き、楽しく過ごせたとしか思っていなかった私に、本当の意味の国際交流とはどんなものかというのを思い知らされるものでした。日本人としてちゃんとした知識を持ち、それを自分の意見として言葉にできなければ何の交流にもならないと実感しました。



大濠高校・川浪一也先生の挨拶



大濠高校生にネパールの民族楽器を紹介



韓国の音楽を演奏



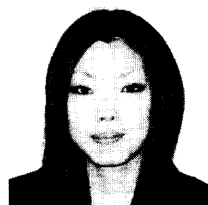
大濠高校生とおしゃべり

この研修期間、特に旅行中うまく研修生をサポートできたかは分からないけれど、みんなとたくさん語り合い、一緒になって日本の文化を改めて学び、私にとって間違いなく国際交流への一歩となりました。国同士では今いい状態でない所もあるけれど、個人間では、こんなに分かり合えるのだから、この小さな単位が広がっていけばきっと国同士の良い関係につながると信じています。みんなと出会って一緒に過ごした期間は決して忘れることのできない大切な思い出であり、この関係をずっと続けていきたいと思っています。こんな素晴らしい機会を与えて下さった福岡大学国際センターの皆様に本当に感謝しています。ありがとうございました。



FIT の活躍 (研修旅行)

大 島 彩 乃 (人文学部東アジア
地域言語学科)



能観賞の感想・報告

10月25日、アジア圏からの研修生と「雷電」という能を見に行きました。私は今まで一度も能を見たことがありませんでしたが、研修生の中には、自分の国で見たことがあるという人が意外に多く驚きました。しかし、自分の国で見た能と、日本で見る能は雰囲気もまた違ってよかったのではないかと思います。内容が理解できるのかという不安がありましたが、学校での事前の文化研修や、能の演者の方によるプレトークでの説明もあったため、大体的内容は理解できました。終了後に研修生に尋ねると「大体理解できた」という人が多く、日本語のレベルの高さに驚きました。また、文化研修で学んだものと同じ動きがあったなど、とても楽しそうに話していたのが印象的でした。中には、演者の方に積極的に質問をしている研修生もいて、日本の文化にとっても興味を持ってきているのだと嬉しく思いましたが、同時に、私は日本人であるのに、歌舞伎や能など日本の代表的な芸能を一度も見たことがなく、恥ずかしくも思いました。

以前は能に対して、年配の方が見るものであり、気軽に見れないという印象を持っていましたが、若い人でも気軽に見ることができ、楽しめるものだと知りました。また、外国の文化を学んでいく上で、もっと日本の文化を知り、大切に思うことが重要であると改めて感じました。今回、このようなよい機会がなければ、能を見ることも、芸能文化に興味を持つこともなかったと思います。しかし、これからは能だけでなく今まで見なかった日本の芸能文化を多く見て、私のようにあまりよくない先入観を持っている人たちに見てもらえるように、薦めたいと思います。

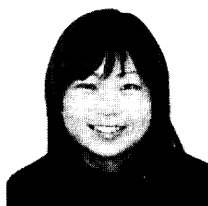


水前寺公園



熊本城

荒 卷 幸 子 (人文学部東アジア
地域言語学科)



NHK 福岡見学に参加して

私がこのセミナーに参加を希望したのは留学生と一緒に行動する時間がたくさんあると思ったからです。NHK 見学後の研修生相互交流会にも参加できるということで、ぜひ参加したいと思いました。NHK 見学の前日に行われた歓迎会で知りあった中国や韓国の研修生と一緒に見学しているいろんなことを知りました。韓国や中国のテレビ局では、日本のような発達した技術はまだないそうです。私自身も初めてテレビ技術を見てびっくりしました。私は中国の研修生と一緒にいたのですが、中国語でいろいろ話してくれてとてもいい勉強になりました。ネパールの研修生がずっとビデオを撮っていたので勉強熱心だなと感心しました。セミナーハウスに戻って交流会まで時間があつたのですが、韓国の研修生がずっと一緒にいてくれて韓国の今の姿をいろいろ教えてくれました。韓国の研修生は皆日本語が流暢だったし、中国の研修生もびっくりするくらい上手だったので語学に対する向上心の高さに感心しました。交流会も最初はバラバラに話していたけど、最後は各国の歌をそれぞれの国の研修生が歌ってくれたので感激しました。私にはとても勉強になる一日でした。その後も一緒に昼ご飯を食べたり夜まで遊んだり思い出がたくさん出来ました。自分のヒアリング力や語学力も少しは高まったような気がします。今も中国語でメールのやりとりをして勉強と交流をしています。私は昨年もこのセミナーに参加しましたが今年も昨年と違った思い出を作ることが出来ました。来年もまた参加したいと思います。



島 原 城



宿での夕食



雲仙岳災害記念館

山 口 大 輔 (大学院人文科学研究科)



アジア圏研修ボランティアに 参加して

今回、私は二泊三日の旅行と、各国に関するプレゼンテーションの授業(日本語研修)に参加した。

初めて彼らと顔を合わせたのが旅行の初日の朝。当日はあいにくの雨だった。ボランティアの学生らと打ち合わせをしていた際に、ある女性が私たちに話しかけてきた。

「おはようございます。はじめまして。私は…」



研修旅行もいよいよ終わり

聞けば、彼女は韓国人。驚いたことに、そのアクセント、イントネーションは完璧であった。ある程度会話がすすむと、彼女の会話表現は「若者言葉」に切り替わり、はたから見れば私たちの会話は日本人同士のそれのように映っていたらう。さらに驚いたことに、彼女は日本語を学び始めて三年足らずだという。韓国では日本語—韓国語の通訳のアルバイトをしているらしい。外国語を学び始めて三年で通訳…。確かに、日本語と韓国語の文法はほぼ同じで、どちらかを母国語としているものにとっては、単語さえ覚えれば、互いに何とかなる言語である。しかし、彼女のそれは「何とかなる」のレベルではなかった。

旅行中、中国人の学生に、「日本の七草を教えてください」と尋ねられた。とんだ難問(?)である。辛うじて、中学で教わった春の七草の短歌を思い出した。

「せりなすなごぎょうはこべらほとけのざすずなすずしろ春の七草」

それを聞くと彼女は、手に用意していた日本語メモ帳にすぐさまそれを書き記した。わからない言葉、おもしろい言葉を聞くたびにこまめにメモをとるのだという。真っ黒に書き足されたそのメモ帳からは、彼女の日本語を学ぼうとする強い意志が垣間見られた。そこにメモされていた『『秋』の七草』を私は知らなかったのだが…。

プレゼンの授業での出来事もとても印象深い。各国の伝統行事、民族に関することもあれば、日本の音楽シーンに鋭い焦点をあてた発表などバラエティーに富んだ内容だった。ネパールの学生の発表では、写真、小道具、民族衣装などを使用し、「ネパールを知ってもらいたい」という気持ちが十分に伝わった。民族舞踊と彼の陽気さも相まって、クラスのみんなが楽しめる内容だった。

彼らの日本でのスケジュールを見ると、休日は一日もない。研修の後半、さすがに疲れた様子もあったが、それにもかかわらず、「日本を、福岡をもっと知りたい」という意思からか、できる限り日本人学生との交流などを図ろうとする姿勢が見受けられた。

今回、このボランティアに参加して、様々なことを学んだ。日本を知ろうとする気持ち、特に語学に対する意志の強さは目を見張るものであった。別れ際、数々の「ありがとう」を言ってくれたが、私も彼らに対してその気持ちでいっぱいである。私たちボランティアが彼らの手助けになったと、彼らが思ってくれば、この上ない喜びである。



日本語研修・発表



修了式・歓送会



親友です!



なごりは尽きず…